総合的な学習研究部研修会

令和５年５月３１日（水）

第１回研修会

【講話】

横断的・総合的な学習を大切にした総合的な学習の時間
～総合は何を「つなぐ」のか～
浜松市教育委員会指導課　河合祥悟　指導主事

1　総合的な学習の時間とは

探求のサイクルをブラッシュアップすること。それが今年度の総合的な学習の時間において大切なことである。探求のサイクルとは、①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→①課題の設定・・・である。特にポイントとなるのが､「教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるようにする」､「他教科等で身に付けた資質・能力が総合的に働くようにする」ことである。そのために、総合主任を中心に、年間指導計画を立てる必要がある。総合的な学習の時間では､「たくましく未来を生きる子供たちを育成すること」､「未来の創り手となるために必要な力を育むこと」が求められている。

総合的な学習の時間は､「自分でよりよい未来を創っていくための授業」である。小学校・中学校で探究のサイクルを回し、未知の状況にも対応できる資質・能力を身に付ける必要がある。しかし、児童生徒が自ら課題をもつことが大切だと思うが故に、課題の設定でつまずく教師が多い。望ましい状態が定義できなければ、問題・課題も正確に定義できない。①現在の状態を知る。②望ましい状態を定義する。③現在の状態のままの未来を考える。②と③の間に生じる問題を解決するための課題を解決していく中で、学び方の習得や知識・技能の習得をさせたい。

2　小中（学年間）をつなぐ・教科等を横断的につなぐ

年間指導計画を作成する際、当該学年までの児童の学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、その経験や成果を生かしながら年間指導計画を立てる必要がある。また、各教科等の単元を関連付けることにより、それぞれの学習活動は充実する。

全国学力・学習状況等調査を見ても、国語と総合的な学習の時間の関連が非常に大きいことが分かる。総合的な学習の時間に力を入れ、探究的なサイクルを回していると正答率が高い。教科等のつながりを考え、思考ツールを生かしながら授業を行うことが大切である。